



春里中学校

学校だより 令和7年度 5月号

TEL: 048-683-3458

FAX: 048-683-8979

学校教育目標
自ら学ぶ生徒
思いやりのある生徒
健やかな生徒

「子どものサインを見逃さない」

校長 うえ だ やす まさ
上 田 泰 正

新緑が目に眩しい季節となり、新年度が始まって早1ヶ月が立ちました。生徒たちは、新しい学級や友達、先生との出会いなど、新たな環境での生活や学習などが本格的にはじまり、授業や部活動など、様々な場面で頑張っている姿を多く見かけます。学習や学校行事、部活動にと積極的に取り組み「夢中になって頑張れるもの」を見つけてほしいと願っております。

さて、過去の埼玉新聞の記事ですが、東京学芸大学の臨床心理学の教授である大河原美以さんが投稿していた文章の一部を紹介します。

新学期、クラス替えや転校など環境が変わり、悩みやつらいことがあるだろう。そんなときは、ちゃんと泣いて大人に助けを求めて欲しい。

泣くことはすごく大事。嫌なことがあったとき悲しい気持ちになったとき、疲れてどうしようもないとき、腹が立ってどうしようもないとき、ちゃんと泣いて気持ちを伝えよう。

つらくて悲しくて不安で困っていて、もう頑張る力が出てこないとき、泣かないで頑張ってしまうと、実はよくないことがたくさん起こる。誰かをいじめたい気持ちがわいてくるし、暴言を吐きたくなる言葉が頭にいっぱいになる。そんな気持ちが暴走してしまうと、大人から叱られる。

ちゃんと泣けるということは、大人に「助けて」って言うこと。子どもには泣く権利がある。困ったときにいっぱい泣いて、大人に受け止めてもらった子どもは、他者に優しくすることができるから。

新学期、子どもたちは不安でいっぱい、困ったときは泣いてもいいんだよ。

中学校生活の3年間には、子どもたちも、いくつもの「壁」にぶつかります。たいていの場合は、その「壁」を乗り越える過程で、成長していくものですが、中にはその「壁」が、どうしても乗り越えられず、重い負担となってしまう場合もあります。

そんな時は、きっと何らかのサインが出ているはずです。泣くこともサインの一つだと思いますが、子どもによっては、ほんのわずかなサインしか出さない場合もあります。私たち大人は、そのサインを見逃さないようにするとともに、あるがままの姿を受け止める姿勢を、日頃から子どもたちに伝えておくことも大切なことではないでしょうか。